

I 事業概要

総 括

公益法人としてより一層の組織体制全般及び事務、事業の推進を図り、加盟団体との連携体制の適正化や事務事業の効率化、競技力向上やタレント発掘事業、スポーツ医・科学事業や地域スポーツ振興事業等、各事業の推進において一定の成果を上げることができた。

(1) 会議、委員会、研修会

- ・定例理事会を3回、臨時理事会を3回開催した。
- ・定時評議員会を1回、臨時評議員会を1回開催した。
- ・評議員選定委員会を1回開催した。
- ・専門委員会として、総務委員会、財務委員会を3回開催し、企画委員会、強化・育成委員会を3回、普及委員会・表彰委員会を3回開催し、倫理・コンプライアンス委員会を2回臨時倫理・コンプライアンス委員会を1回開催した。
- ・4月に加盟団体事務事業説明会を開催した。

(2) 自主財源確保事業

- ・賛助会員募集 法人・企業・団体会員：139件（前年比－3）
個人会員：45件（前年比－6件）
- ・協賛広告募集 19件（前年比－1）
- ・オリジナルシャツ販売 1,547着（前年比＋433）
- ・Sports for all 推進費付き自動販売機 5台（前年比同）

1 競技力向上事業

2027年国民スポーツ大会を見据えた競技力の向上を図るため、関係機関団体と連携しながら、現状分析、事業等の検証と改善、本会、組織運営の強化、指導者の育成等に取り組み、県民の理解、支援拡大に取り組んだ結果、各事業で下記のとおり成果を上げることができた。

(1) 宮崎国スポ強化戦略プロジェクト

① 国スポ選手強化プロジェクト

- ・選手強化費…41競技団体に事業費の一部を補助し競技力向上に努めた。
- ・トップチーム活用支援…22競技団体に事業費の一部を補助し競技力向上に努めた。
- ・個人強化指定選手支援…11競技団体の14名を個人強化選手に指定し支援した。

② 女性アスリート等活動支援プロジェクト

- ・ネクストアスリート強化指定選手支援…国スポ入賞が期待される選手11競技25名を指定し支援した。
- ・スポーツ環境支援事業…女性アスリートや指導者9競技20名を指定し支援したほか女性特有の健康課題に対する医療費を17団体25名に補助した。

③ ターゲットエイジ選手確保・強化プロジェクト

ターゲットエイジ強化のために38団体を指定するとともに、4競技20名を特別強化指定選手として支援した。

④ 大学、社会人スポーツ支援プロジェクト…6競技13チームと個人60名を指定し支援した。

⑤ ふるさと選手活動支援プロジェクト…ふるさと選手を活用し強化を図る22団体26名を指定し支援した。

(2) コンディショニングサポート事業

- ・メンタルコーチ等派遣事業…選手の力を発揮させるために10団体を支援した
- ・パフォーマンスサポート事業…選手のパフォーマンス向上のために、26団体に44名のトレーナーを派遣したほか、7団体に栄養士を派遣した。

(3) チームみやざき強化アドバイザー招へい事業

高い指導力と経験を有する33競技49種目72名の指導者を指定し競技力向上に努めた。

(4) 宮崎ワールドアスリートプロジェクト事業

世界や全国の舞台で活躍できるトップアスリートの育成を目指して、中1から中3まで81名のアスリート生を対象に、月2回の育成プログラムや専門化を図るためのパスウェイプログラムを実施した。

また、第9期アスリート生オーディションや本事業修了者3名に対して活動費の一部を補助した。

(5) 加盟団体組織整備事業…加盟団体の活動及び組織の発展のために補助金を交付した。

(6) 競技力向上推進員確保事業…2027国民スポーツ大会に向けた競技力向上のために19競技42名を採用した。

(7) 強化推進事業

- ・チームみやざきミーティングを2回、緊急ミーティングを1回開催し、競技団体の現状分析、2027国スポに向けた強化策等を協議した。
- ・国民スポーツ大会強化指定証を41競技団体1870名に交付した。

(8) その他

- ・海外派遣選手等支援事業…5競技26名を支援した。
- ・国民スポーツ大会リハーサル大会派遣事業…2競技団体を支援した。

2 国民スポーツ大会派遣事業

帯同コーチ、ドクター、トレーナーの確保を図り、その派遣等を通して試合環境の整備を推進することができた。

(1) 九州ブロック大会派遣

- ・前期競技：5月から7月にかけて、長崎県を中心に開催された11競技に選手、役員等145名を派遣した結果、9競技で21の代表権を獲得した。
- ・後期競技：8月に長崎県で開催された21競技に選手、役員等705名を派遣した結果、15競技で23の代表権を獲得した。ブロック大会全体を通して、本県は24競技で44の代表権を獲得した。
- ・冬季大会：12月に福岡県で開催された1競技に選手、役員等62名を派遣し、アイスホッケー競技が代表権を獲得した。

(2) 国民スポーツ大会派遣

- ・本大会：9月から10月に滋賀県を中心に開催された大会に、34の競技で選手・役員等552名を派遣した結果、9競技11種別・種目の団体、11競技60種目の個人が入賞し天皇杯順位31位という成績であった。
- ・冬季大会：1月、2月に青森県開催の3競技に選手、役員等77名を派遣し、1競技3種目の個人が入賞した。

(3) コーチ派遣

- ・九州ブロック大会に107名、国民スポーツ大会に85名、冬季大会に2名を派遣し選手の指導・調整に努めた。

(4) ドクター、トレーナー派遣

- ・競技団体所属のトレーナーを九州ブロック大会に22名、国民スポーツ大会に20名派遣し選手のスポーツ障害等への対応に務めた。また、本部役員付のトレーナーについては、九州ブロック大会冬季大会に1名、国民スポーツ大会に7名、冬季大会に4名が帯同した。ドクターについては、国民スポーツ大会に4名が帯同し、怪我等の対応にあたった。

3 みやざき県民総合スポーツ祭事業

今年度から総合開会式を廃止し、競技別開始式として大会を開催した。大会は県内7市10町61会場で5月から10月の間、54競技に10,224名が参加して盛大に開催された。

4 スポーツ指導者養成事業

公認スポーツ指導者の活用、活躍に向けて、公認スポーツ者資格の啓発、指導者の資質向上に取り組み地域のスポーツ指導者の取組を支援することができた。

(1) 宮崎県スポーツ指導者協議会

- ・理事会を6月と1月の2回開催（1月については紙面開催）し、年間の予算や計画、公認スポーツ指導者表彰等について審議した。

(2) 公認スポーツ指導者表彰

- ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰を5名が受賞した。

(3) スポーツ指導者研修会・総会

- ・2月7日(土)にJ A・A Z Mホールで開催し、291名が参加し研修した。

講義：「人はなぜ、ハラスメントをするのか」

講師 宮嶋泰子 氏（一般社団法人カルティベータ代表理事）

講義：「スポーツ指導における法的問題」

講師 合田雄治郎 氏（合田綜合法律事務所代表弁護士）

(4) 全国スポーツ指導者全国研修会及び連絡会議

- ・研修会は11月22日に開催されオンラインで2名参加した。連絡会議は2月17日オンラインで開催され、1名が参加した。

(5) スポーツ指導者協議会機関誌「躍動みやざき」

- ・第14号を12月に県内公認指導者対象に発行した。

5 地域スポーツ振興事業

競技の普及、競技力の向上、スポーツに対する県民の意識向上のため、加盟団体、報道機関、行政等と連携して、関係事業を推進することができた。

(1) 生涯スポーツ普及活動支援事業

- ・総合型地域スポーツクラブ5クラブ、生涯スポーツ加盟団体1団体に支援した。

(2) 加盟団体組織整備補助

- ・国スポ競技団体以外の14競技団体と3学校体育団体15市郡体育・スポーツ協会に補助金を交付した。

(3) 第15回宮崎チャレンジマッチ

- ・6月29日に宮崎市総合体育館において2回目となるハンドボール競技を開催した。男子は宮崎選抜と駿台甲府高等学校、女子は宮崎選抜と神戸星城高等学校が対戦し、本県選抜は男女とも準優勝であった。

(4) 名義後援、共催

- ・加盟団体等の事業、大会後援：77件、大会の共催：2件

6 スポーツ医・科学事業

本県のスポーツ振興と競技力向上及び選手の健康管理を図るため、医・科学的な研究をとおして関係事業を推進することができた。

(1) スポーツ医・科学委員会

- ・3回の会議を開催し、本年度の事業計画等について協議することができた。

(2) ドーピング防止研修会

- ・9月と1月の国スポ結団壮行式で監督、選手等を対象にして2回実施した。

(3) 大会派遣に係る健康相談

- ・国スポに合わせ、県の電算システムを用い問診票をもとに実施した。

(4) メディカルチェック

- ・11月30日（日）、次年度の国スポ・障スポ候補選手（陸上、フェンシング、水球ウエイトリフティング、ホッケー、バドミントン、障がい者スポーツ）の7競技69名を対象に実施した。
- ・報告会を、2月中旬から3月までに競技団体ごとに実施した。

(5) アスレティックトレーナー（AT）養成講習会

- ・4名の受講で7月から5回実施し、2027宮崎国スポ・障スポに向けて養成を行った。

(6) 日本スポーツ協会講習会派遣

- ・日本スポーツ協会公認ドクター養成講習会に5名、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会に2名を推薦した。

7 スポーツ顕彰事業

昨年度に見直した表彰規程をもとに、表彰の推薦及び表彰事務を適正、円滑に行った。

(1) スポーツ功労賞、優秀賞、奨励賞、推進賞（一般対象）

- ・2団体と個人30名を表彰した。

(2) スポーツ優秀賞、奨励賞（小中高生対象）

- ・14団体、選手190名、指導者48名を表彰した。

(3) 国民スポーツ大会賞

- ・9団体と選手73名、指導者66名を表彰した。

8 スポーツ少年団事業

団員減少、指導者の資質向上、学校及び地域のスポーツ団体との連携など課題解決に組織全体で取り組んだ。今年度の登録団数は657団、登録団員は12,167名（前年度661団、12,113名）、登録指導者は1,334名（前年度1,290名）で団数は少し減少しているが、団員と指導者は増加している。

(1) 宮崎県中央大会：15競技すべて実施し、2,729名の団員が参加した。

(2) 九州ブロック競技別交流大会

- ・本県から4競技に参加した。

(3) 日本スポーツ少年団及び宮崎県スポーツ少年団顕彰

- ・それぞれ個人2名を表彰した。

(4) スタートコーチ養成講習会

- ・10月と11月、1月に対面形式で3回開催し、合計289名が参加した。

(5) リーダー育成事業

- ・8月30日(土)～31日(日)に青島青少年自然の家において、リーダー会、育成指導者、看護師、参加者総計31名で実施した。

(6) リーダー会活動

- ・6月に青島青少年自然の家で開催を予定していたが、参加人数が揃わず中止した。

(7) 全国スポーツ少年大会

- ・今年度は不参加であった。

(8) 九州ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

- ・10月に佐賀県で開催され、指導者1名、県リーダー会5名が参加した。

(9) 母集団育成研修会、ブロック別研修会、リーダー研修会

- ・母集団育成事業を3市町で実施予定。ブロック別研修会を3ブロックで開催した。
- ・初級ジュニア・リーダー研修会は2市町で実施した。

(10) 九州ブロックスポーツ少年団連絡協議会

- ・今年度は本県が事務局となり、4月と11月に2日間の予定で開催した。1月にも3回目を開催した。

9 総合型地域スポーツクラブ事業

(1) 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

- ・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会役員会・理事会・総会を2回開催し、各部会を3回開催し、JSPC登録クラブ間の連携及びクラブの活性化を図った。

(2) 市町村及びクラブ実地調査、ヒアリング

- ・県内26市町村と32のクラブを訪問してヒアリングを実施した他、新規立ち上げを

進めている団体のヒアリングを行った。また、登録更新のための審査会を1回実施した。

(3) 資格取得支援

- ・アシスタントマネジャー資格取得のために、1クラブ1名に資格取得費の一部を補助した。

(4) ひなたスポーツフェスタ開催

- ・12月6日(土)に、宮崎県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が中心となってひなた木の花ドームにて開催し、宮崎市を中心に394名が参加して、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツプログラムを提供するとともに、県内の総合型地域スポーツクラブの認知度向上に努めた。

10 広報及び記録収集、活用事業

本会、加盟団体及び本県スポーツに対する認識向上のために、SNSの活用などあらゆる機会を利用して情報の発信に努めた。

(1) 広報

- ・広報機関誌「宮崎スポ協第225号」を3月末に県内関係機関に1,800部発行した。
- ・HP運用に関して、月平均11251件（昨年度10105件）アクセス数があり、昨年度より関心が高まっている。
- ・国民スポーツ大会や本会に関わる会議、事業等の様子を即時に情報発信できるようインスタグラムの活用にも努めるとともに、HP上に国民スポーツ大会等の申込専用ページをリンクさせ、利便性の向上に努めた。

(2) 記録収集、活用

- ・本会、加盟団体の事業、活動記録及び本県スポーツ情報を収集・管理し、HP等を通して県民に提供した。